



極晩生で大粒の
一季成り性イチゴ

そよかの

- ◆ 寒冷地・高冷地における露地栽培または半促成栽培で、晩春～初夏の端境期に収穫できます。
- ◆ 大粒で、形も良く揃います。
- ◆ うどんこ病レースOに抵抗性です。

育成のねらい

イチゴは、ケーキなど業務用として年間を通じて需要がありますが、春から夏にかけて全国的に生産量が減ってしまいます。

東北や北海道などの寒冷地・高冷地では、その気候を活かして、5～7月頃の晩春から初夏にかけて果実を収穫する露地栽培や半促成栽培が行われています。

これらの作型に適した品種「そよかの」を育成しました。

品種名「そよかの」は、そよかぜの吹き渡る野原で初夏に収穫できることから命名されました。

品種特性

- ・寒冷地・高冷地の露地栽培や半促成栽培に適しています（表1）。
- ・草姿は立性で大株になります。
- ・収量が多いです（表2）。
- ・果実は大粒で、形がよく揃います（表2）。
- ・果皮は明るい赤色で、収穫後に黒くなりにくいです。
- ・北日本等で発生するうどんこ病レース0に抵抗性があります。

表1 寒冷地・高冷地における「そよかの」の作型(参考例)

作型	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
露地栽培		← 定植 →							← 追肥、マルチ →			← 収穫 →	
				積雪下で越冬						← 開花 →			
無加温半促成 (低温カット)		← 定植 マルチ →		← べたがけ →					← 追肥 →			← 収穫 →	
			無加温ハウス内で、べたがけ、トンネル等により保温								← 開花 →		

※低温カット栽培の詳細については、別途専門資料を参照してください

表2 「そよかの」と「北の輝」の比較(2013-2015, 2017年の平均、岩手県盛岡市)

作型	収穫期	品種名	商品果収量 kg/a	北の輝比	1果重 g	商品果率 %	形の揃い	果皮色	果実の硬さ
露地栽培	6月上旬～	そよかの	150.5	109	16.5	92.7	良	明赤	中
	7月上旬	北の輝	138.5	100	13.3	84.7	やや劣	濃赤	極硬
半促成栽培 (低温カット)	5月上旬～	そよかの	302.0	151	16.2	96.7	良	明赤	中
	7月下旬	北の輝	200.5	100	11.5	91.4	中	濃赤	極硬



「そよかの」果実
大粒で形が揃う



果皮色は明るい赤色

栽培のポイント

- ・秋に定植し（9月を中心に適宜調整）、低温期までに根張りをよくします。
- ・定植前に元肥、春先に追肥をします。
- ・芽数を確保するため、芽かきはしません。
- ・果実硬度は中程度であるため、適期収穫に努めることが重要です。
- ・萎黄病やうどんこ病レース1に対しては罹病性であるため、予防的防除や、健全な親株からの増殖が必要です。

品種の活用面

- ・促成栽培のイチゴが少なくなる晩春～初夏の端境期に収穫できます。
- ・果実は大粒の円錐形で、ケーキ等の業務用、生食用として利用できます。

